



## News Release

バイエル薬品株式会社  
株式会社リバネス

### < 科学イノベーション調査 2014 >

## 日本の科学研究者 129 名が選ぶ、2014 年の最も革新的な科学ニュースは 1 位「青色 LED ノーベル賞」、2 位「iPS 網膜移植手術」、3 位「iPS 血小板作製」

- 選定理由に「社会への貢献」と「実用化」
- 「産学連携による共同研究の流れは、研究のイノベーションを促進する」97%
- 研究者側の産学連携ニーズの高まりに、バイエル薬品は専門組織を新設して積極的に対応

大阪、東京、2014 年 12 月 4 日 — バイエル薬品株式会社(本社:大阪市、代表取締役社長:カーステン・ブルン、以下バイエル薬品)のオープンイノベーションセンター(Open Innovation Center Japan : ICJ)は、科学技術分野の研究者支援事業を展開する株式会社リバネス(本社:東京都新宿区、代表取締役:丸幸弘)と共同で、国内の大学・研究所に所属する科学研究者 129 名に対してアンケート調査を実施しました。

調査のなかで、2014 年にマスメディアで取り上げられた主な科学ニュースのうち「イノベーションとして特に評価できる研究」を科学研究者に選択してもらったところ、以下の 3 件が上位に選ばれました。

- 1 位「青色 LED の開発がノーベル物理学賞を受賞」(62.0%)
- 2 位「iPS 細胞由来網膜組織の移植手術」(47.3%)
- 3 位「iPS 細胞からの血小板作製技術の開発」(38.8%)

各ニュースの選択理由では、上位 3 件に共通して「社会への貢献」や「実用化」についての言及が多く見られ、研究がどのように社会に役立つかを重視する傾向が伺えます。

また、多くの科学研究者が、産学連携によるイノベーションについて積極的な回答を示しました。

- 「産学連携による共同研究の流れは、研究のイノベーションを促進すると思う」(96.9%)
- 「今後 3 年以内のスパンで考えて、自身の研究において産学連携を推進していきたい」(85.3%)

産学連携において企業に求めることについては、「研究資金の調達」(78.3%)の他、「事業化・製品化のノウハウ」(48.8%)や「市場ニーズの把握」(47.3%)などが上位に挙げられています。

今回の調査結果について、バイエル薬品 オープンイノベーションセンター (ICJ) のセンター長・高橋俊一は「日本は世界有数の基礎研究力を持ちながら、産学連携に関しては他国に比べて進んでいるとは言えない状況でした。ICJでは、今年6月の設立以来、多くの研究者の方々と意見交換している中で、まさに今回の調査結果のような研究者側からの強い意欲とその必要性を実感しています。企業が持つ事業化ノウハウや生活者との接点は、研究成果の実用化に大きく貢献できるものです。ICJはそのために発足した組織であり、日本の研究者の方々とともに、“日本発のグローバル創薬”を実現することにコミットしています」と述べています。

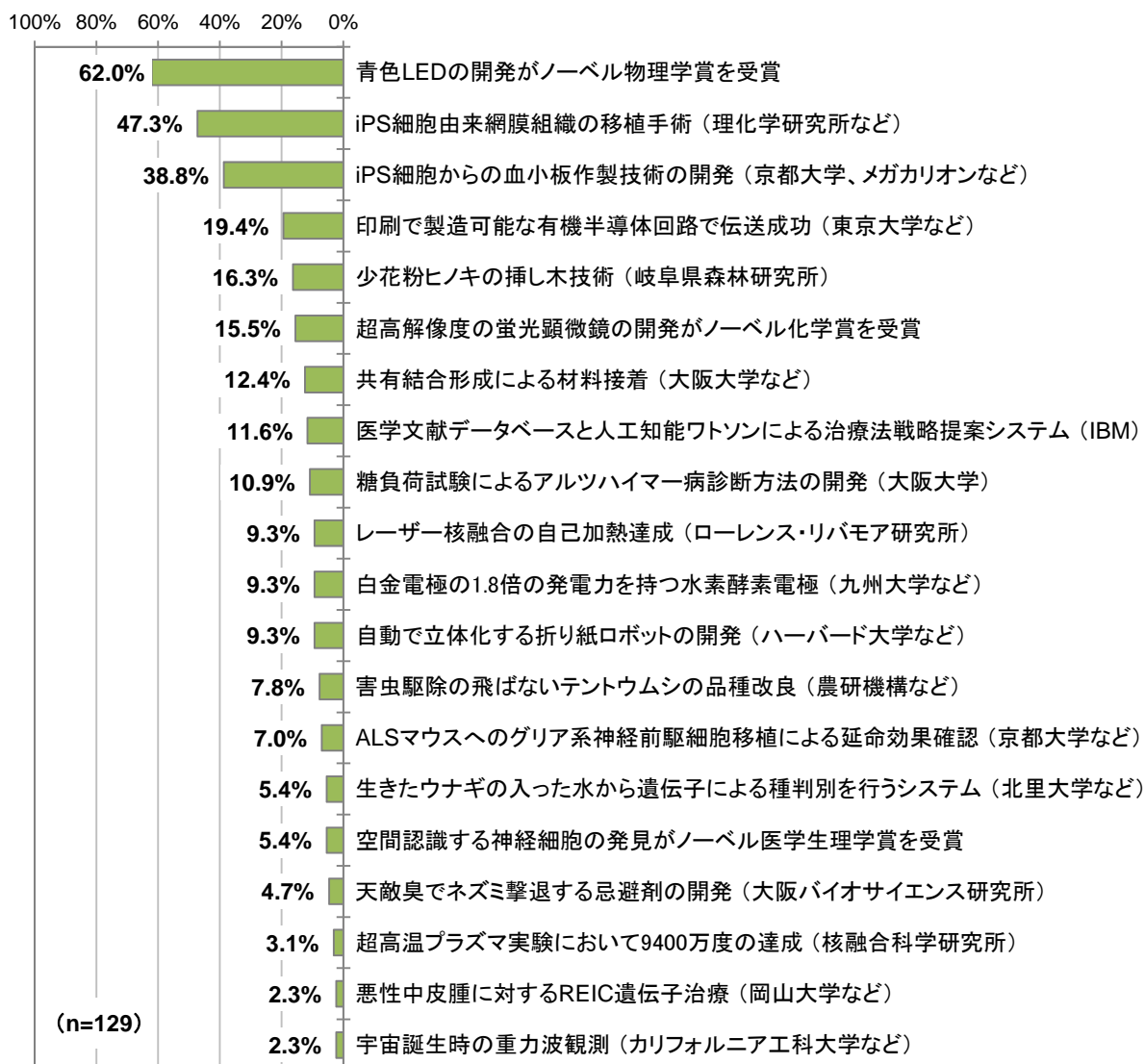


バイエル薬品 ICJ  
センター長・高橋俊一

<調査結果>

■ 2014年にマスメディアで取り上げられた科学ニュースのうち、イノベーションとして特に評価できる研究

(※20件の科学ニュースから3つを選択)



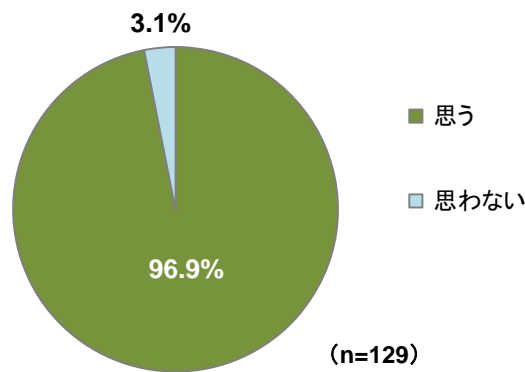
◇ 主な選択理由 (※自由記述)

**青色 LED ノーベル賞:** 「社会的影響の大きさ、利便性享受者の多さ」、「学問としても高度」、「実用で大きな社会貢献」、「中村氏の開発精神に感動した」、「大学発技術移転の成功例」

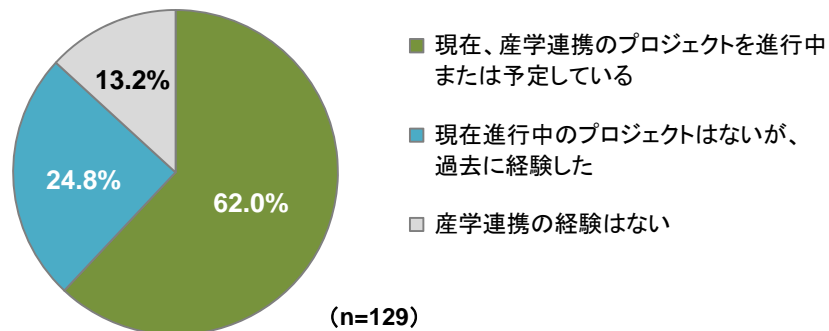
**iPS 網膜移植手術:** 「医療現場への実用化」、「需要が多そう」、「盲目者の治療の可能性が出てきた」

**iPS 血小板作製:** 「iPS の医学応用の第一歩」、「医療の仕組みを変える」、「世界の産業構造を変えうる」

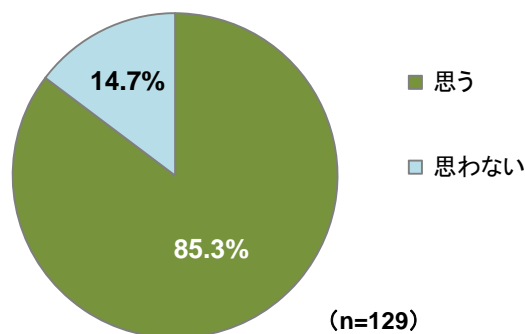
■ 産学連携による共同研究の流れは、研究の「イノベーション」を促進すると思うか？



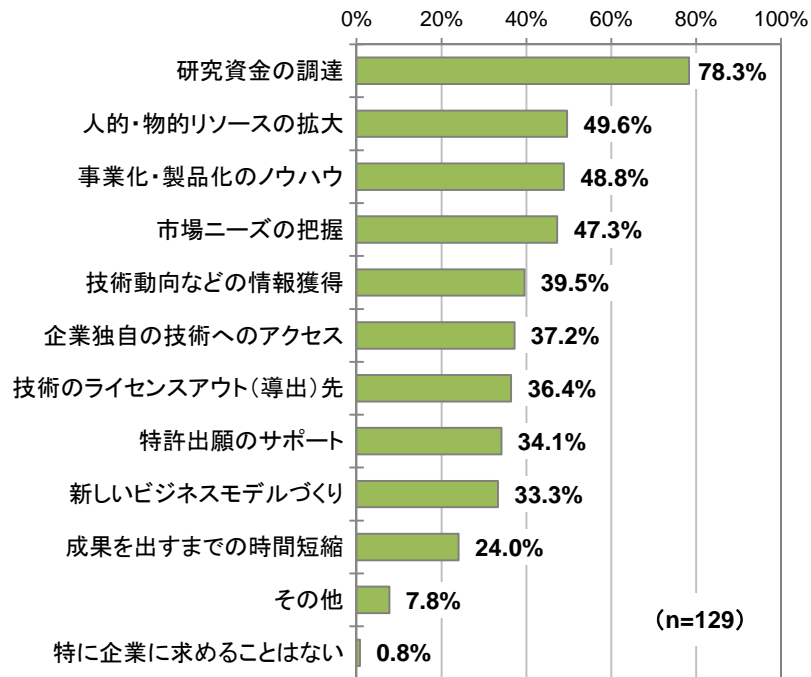
■ 自身の研究で産学連携の経験はあるか？ (共同研究、受託研究、コンサルティング、技術移転など)



■ 今後 3 年以内のスパんで考えて、自身の研究において産学連携を推進していきたいと思うか？



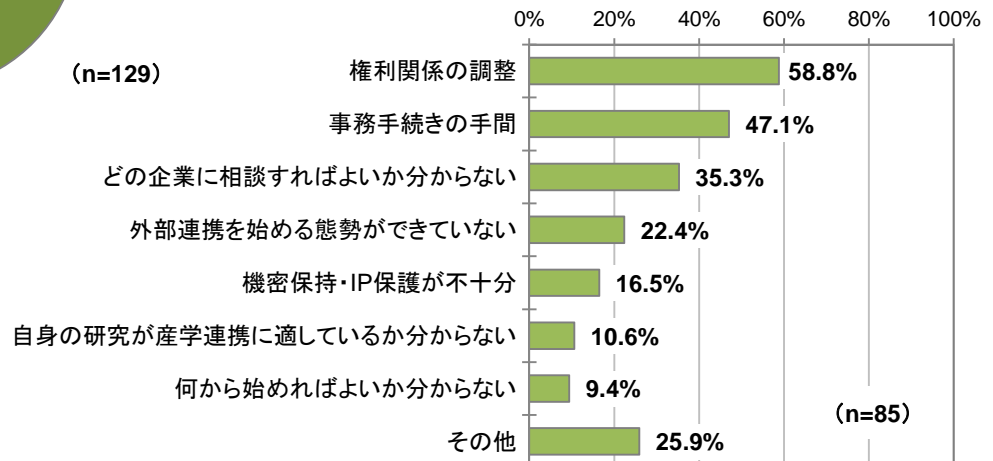
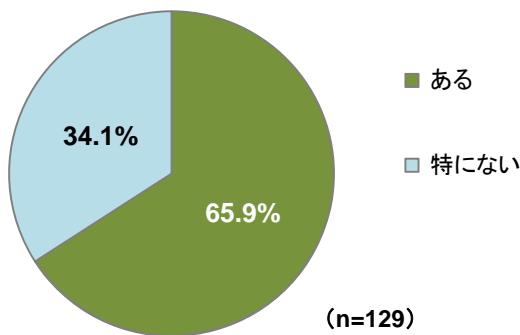
■ 産学連携において、どのようなことを企業へ求めるか？（※複数回答）



「今回の調査結果でも明らかになった研究者の方々の多様なニーズの高まりに対して、バイエルでは多角的なアプローチにより産学連携の機会を提供しています」(バイエル薬品 ICJ センター長・高橋俊一)

■ 産学連携において、課題に感じていることがあるか？

■ どのようなことを課題に感じているか？（※「課題を感じている」と回答した方のみ）（※複数回答）



「既に、課題の上位である『権利関係の調整』や『事務手続きの手間』については、簡素化するという方針をもとに進めているほか、産学連携をサポートする体制も整えており、研究者の方々からの共同研究等の問い合わせも増えてきております」(バイエル薬品 ICJ センター長・高橋俊一)

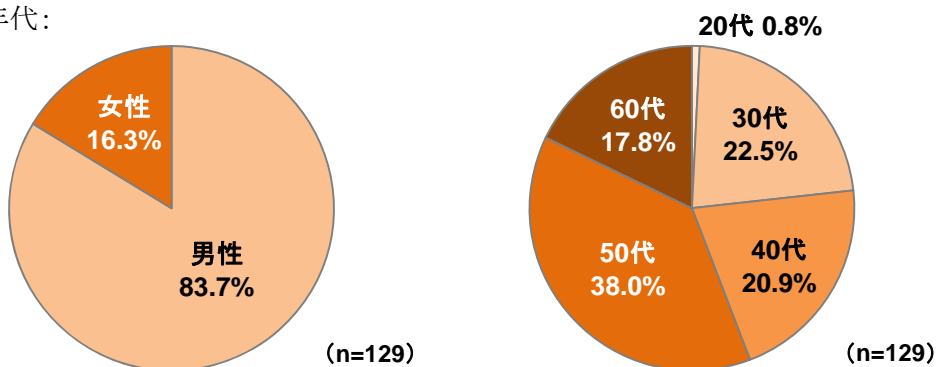
## ■ 調査概要、回答者属性

◇ 調査対象： 日本国内の大学・研究所に所属する科学研究者（有効回答：129名）

◇ 調査方法： メールによる web アンケートフォームの送付

◇ 調査期間： 2014年11月17日～30日

◇ 回答者性年代：



◇ 回答者所属機関(重複を除く)：

北海道大学、室蘭工業大学、茨城大学、筑波大学、宇都宮大学、千葉大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京農工大学、東京工業大学、東京海洋大学、電気通信大学、信州大学、福井大学、名古屋大学、三重大学、京都大学、大阪大学、奈良先端科学技術大学院大学、和歌山大学、島根大学、岡山大学、高知大学、九州大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学、公立ほこだて未来大学、秋田県立大学、会津大学、横浜市立大学、神奈川県立保健福祉大学、岐阜薬科大学、静岡県立大学、大阪市立大学、大阪府立大学、奈良県立医科大学、関西大学、関西学院大学、北里大学、九州保健福祉大学、慶應義塾大学、国際基督教大学、産業医科大学、創価大学、中部大学、帝京大学、帝京平成大学、東海大学、東京工芸大学、東京電機大学、東京農業大学、東京薬科大学、東京理科大学、同志社大学、光産業創成大学院大学、立教大学、立命館大学、早稲田大学、防衛大学校、理化学研究所、産業技術総合研究所、農業生物資源研究所、電力中央研究所、未来工学研究所

## バイエル薬品株式会社について

バイエル薬品株式会社は本社を大阪に置き、医療用医薬品、コンシューマケア、ラジオロジー&インターベンショナル(画像診断関連製品)、動物用薬品(コンパニオンアニマルおよび畜産用薬品)の4事業からなるヘルスケア企業です。医療用医薬品部門では、循環器領域、腫瘍・血液領域、ウイメンズヘルスケア領域、眼科領域の4領域に注力しています。バイエル薬品は、Science For A Better Life (よりよい暮らしのためのサイエンス)の企業スローガンのもと、技術革新と革新的な製品によって、日本の患者さんの「満たされない願い」に応える先進医薬品企業を目指しています。

バイエル薬品のホームページ：<http://www.bayer.co.jp/byl>

### バイエル薬品オープンイノベーションセンターについて

バイエル薬品オープンイノベーションセンター (ICJ) は 2014 年 6 月 1 日付でバイエル薬品の開発本部内に立ち上げた組織です。日本国内を対象とし、アンメット・メディカル・ニーズが高い病気の作用機序解明、および革新的治療薬の開発を促進する有望な共同研究を特定することが主な活動です。ICJ の活動を通じて、バイエルはアカデミアやベンチャー企業とのネットワークを強化し、バイエルの専門領域における共同研究や提携機会を開拓することを目的としています。

バイエル薬品 ICJ のホームページ: <https://openinnovation.bayer.co.jp>



### 株式会社リバネスについて

株式会社リバネスは、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」を経営理念に、研究戦略開発事業、情報戦略開発事業、人材開発事業、教育開発事業、地域開発事業の 5 つの事業を展開しています。

株式会社リバネスのホームページ: <http://lne.st>

### 将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)

このニュースリリースには、バイエルグループもしくは各事業グループの経営陣による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements) が含まれています。さまざまな既知・未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因には、当社の Web サイト上 ([www.bayer.com](http://www.bayer.com)) に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。当社は、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負いません。